

できる人が
できる時に
できることを

強制の無いPTA活動の実現

2023年10月6日@PTA/保護者会/P連の本質を考える会

千葉県 流山市立小山小学校 PTA会長 峰松 拓毅

目次

0. 小山小の概要
1. PTAとは
2. 小山小の活動
3. 小山小PTA・ボランティアの取り組み
4. PTA変革の経緯
5. 今後の課題

0. 小山小の概要



- ・千葉県北西部にある人口20万人強の流山市。その中部にある「流山おおたかの森駅」の近くに位置する小山小学校。
- ・全国の市の中で、6年連続人口増加率が1位。子育て支援に手厚いことでも有名。「母になるなら、流山市。父になるなら、流山市」というキャッチコピーでも知られる。
- ・1978年(昭和53年)開校。つくばエクスプレスの開業及び都市開発計画に伴い、2007年(平成19年)に現在地に移設。
- ・児童数1,700名超の超マンモス校。近年1年ごとに100名程度児童数が増加していた。
- ・児童数が大きく変わっていることから、PTAのカタチも頻繁に更新されていた。

1. PTAとは



保護者と教職員が協力して、子供たちの学校生活がより良いものとなるように活動している
「任意組織」＝「ボランティア組織」



2. 小山小の活動



できる人が、できる時に、できることを！

- ・ PTAの役職は完全立候補制の本部役員のみ(委員会は無し)
- ・ 保護者一人一人の負担を減らし、可能な限り、先生方の負担も削減出来るように努める
- ・ 活動及び会費の支払いは、全て「保護者の選択制」
- ・ ITツールを有効活用し、集会・会議など時間的拘束を減らす
- ・ 時勢に応じて、流動的にPTA活動を増減する
- ・ 学校のニーズと保護者の意欲をマッチング
- ・ 年数回のアンケートを通して、保護者からの声を収集

参加して良かった
PTA

負担感の無い
PTA

2. 小山小の活動



PTAのDX化

- ペーパーレス化
- LINEWORKS、Google Formの活用
- 旗当番のシフトツール開発
- 学校・保護者とのタイムリーなやりとり

- 対面での集会、会議や、紙での配布、手集金を最小限にしたことで、それにかかるマンパワー(PTA各委員)を大幅削減。
- 本部役員のみでの少人数での活動が可能に。小山小をよくしていこうとポジティブな意識の人材が集まる。

強制・負担の
無いPTAの成立

削減！

時間
人手
予算
資材

保護者の協力

- 時勢に合わせた改変への理解
- DX化への対応
- LINEWORKSの活用
- PTAとのタイムリーなやりとり、迅速な回答、投票

- 平等の名の下に、全ての保護者に協力を強制していたPTA活動は廃止。
- できる人ができる時に活動する、完全任意のPTAへ。
- 『やらされている』PTAから、自ら参加したいPTA・ボランティア活動へ改革中。

3. 小山小PTA・ボランティアの取り組み



小山小のPTAは、地域コーディネーター(※)と協力して、

「できる人が、できる時に、できることを」

をモットーに、強制感や負担感がなく、楽しく参加できるよう活動している。



子どもたちと教職員の「チーム小山」

保護者・地域の方を含めた「オール小山」

で子どもたちを支える“**共育**”を合言葉に、地域コーディネーターを中心に、学校とのマッチングを図り、子どもたちの学習環境の向上、教職員の負担軽減を図っている。

(※)地域コーディネーター:市教育委員会の委嘱を受け、各担当校からのボランティア要請の下、学校と保護者の連絡調整などを行う。

3. 小山小PTA・ボランティアの取り組み



小山小では地域コーディネーターを中心に、『オール小山』の一員として、子どもたちのより良い教育環境のため、保護者や地域の方にご協力いただき、たくさんのボランティア活動を行っている。

学校支援ボランティア

見守り活動

- 旗当番
- 地区活動ボランティア
- まち探検同行
- 納涼祭パトロール

など

授業サポート

- 読み語り
- ミシンサポート
- クラブ活動指導
- 書き初めサポート

など

環境整備

- ベルマーク
- 図書整備
- 落ち葉掃き
- トイレ掃除

など

4. PTA変革の経緯①



入会制度の見直し

任意ではあるが入会届は必要か？

コロナ禍でPTA活動が出来なくなったことを踏まえ、保護者に入会して頂けるPTAとは「強制感の無い」「負担感の無い」「オープンな」PTAと考え、保護者に入会して頂けるPTA作りに着手。

委員会の廃止

登校方法や行事、集金など形式変更に伴い、不要になった委員を廃止へ

各委員を出す為のクラス会や選考委員による後任探しもなくなり、保護者の心身ともに負担をなくす

本部役員はWebベースの完全立候補制に一本化

会費の見直し

状況に合わせ、真に必要なものに絞り段階的に削減

¥3,600(年額)

→ ¥3,000

→ ¥2,400

PTA主導で口座振替を導入。委員会による集金、納入する手間を大幅削減。学校の集金にも適用。

参加したいと
思える
PTAへ



4. PTA変革の経緯②～LINEWORKSの導入～



- ・ LINEのビジネス版ツール『LINEWORKS』の導入。

LINEWORKSは名前以外の個人情報を必要としない安全な連絡ツール。

導入により、PTAからの手紙の配布、メール配信の手配など学校側の負担軽減。学校からの一斉メールや手紙とは違い、双方向にやりとりができ、スピード感がある発信・情報共有を実現している。

- ・ 導入時期:2021年度3月(2022年3月)～
- ・ 導入資金:非営利団体プランのため、利用料金無料
- ・ 利用率は全保護者の約80%～90%

【こんな事に使っています！】

- ・ 学校からのお便り、お知らせの共有
- ・ 旗当番のシフト表共有
- ・ PTA総会オンライン決議
- ・ 地区、ボランティア内のやりとり



4. PTA変革の経緯③～広報ボランティア～



コロナ禍で、あらゆる行事やPTA活動が停止し、長年活動してきた広報委員会も活動停止へ

学校への保護者参加の機会が激減する中で、子供たちの学校生活やPTA活動を知ってもらうべく、執筆やカメラが得意な有志メンバーで広報ボランティアを新たに立ち上げ

学校のペーパーレス化の流れもあり、Webブログ形式を採用
2022年6月より運営開始

広報メンバーは学校行事や特別授業、保護者ボランティアの様子を取材し、月に2～4回程度記事を配信。

LINEWORKS導入に伴い、取材の現地取材以外の打ち合わせ、作業はすべてオンラインで完結できるようになり、仕事や家事のスキマ時間に各々活動できるようになった。

コロナ禍で誕生した新しいカタチのボランティア活動として、他校からも注目されている。

はてなブログにて、保護者へ限定公開で運営



4. PTA変革の経緯④～見守り活動の見直し～

<問題点>

校区内の地区によって、登校スタイルが異なり、保護者の見守り活動が統一されていない。
地区委員に選ばれた保護者の負担がとても大きい。

旗当番

全世帯対象
年2～3回程度
機械的に振り分け

負担の差

集団登校

1～3年保護者対象
月1～2回程度
希望日のみ

地区委員

見守り活動のリーダー職。
旗当番や集団登校の付き添い当番を作成するため、各地区から総勢60名を選出。
業務量の多さ、苦情や相談対応などから敬遠され、ほとんどがくじ引きで決められていた。

<解決策>

旗当番

集団登校

R4年度より全地区で旗当番制に統一
R5年度からは旗当番シフト作成ツールの導入で、保護者それぞれのライフスタイルに合わせてられるようになった。
場所、回数、免除などの希望をGoogleフォームにて収集。PTA本部の1.2名で全地区分のシフトを作成可能に。

「旗当番シフト作成ツール」の導入により、保護者が選択権を持ち、自主性のある見守り活動が実現した。

最大の業務である旗当番シフト作りが不要になったことで地区委員は廃止。有志のメンバーのみの「地区活動ボランティア」として、純粋に見守り活動にのみ集中できるようになった。

4. PTA変革の経緯⑤～OTTAの導入～



- ・ 西日本を中心に多くの自治体で採用されている見守りサービス『otta』の導入。
- ・ 導入時期:2022年度3月(2023年3月)～
- ・ 導入資金:PTAの周年事業用積立金より捻出。保護者への追加徴収はなし
- ・ 利用率は全校児童の約73%

<利用者の声>

子どもが帰宅するタイミングが分かり、子どもが無事に下校しているという安心感を得ることができました

共働きで、子供を毎日見守ることは難しいですが、ottaがあれば万が一の時に安心なので、お守りのような気持ちで持たせています

小山小だけでなく、市内全域に普及して、ottaを持って出掛ける事がいつか当たり前になったら良いなと思います

地域でこういった見守りサービスを導入している事が、子どもを巻き込む犯罪の抑止に繋がるのでは、と期待しています



無料配布端末

4. PTA変革の経緯⑥～個人面談シフト作成ツールの導入～

- ・「旗当番シフト作成ツール」の導入をきっかけに「個人面談シフト」作成にも応用出来るのでは、との学校側の提案。
- ・学校へのヒアリング、「旗当番シフト作成ツール」開発者と打合せを重ね、試行版を作成。
- ・2023年度夏休みの個人面談から導入。
- ・初回使用後の保護者アンケート回答者の内、約95%がシフトに「満足」「ほぼ満足」と回答。



<先生方の声>

シフト作成が楽になった。これまでは集計やシフト表の作成に多くの時間がかかっていたが、担任としての作業が大幅に軽減された。

特別支援学級と交流学級との担任間の連絡もスムーズになった。

<保護者の声>

先生の面談の予定もわかり、希望日の提出がしやすかった。

Googleフォームでの回答となり、先生の事務作業が軽減されるのは、とても良い取り組みだと思いました。

5. 今後の課題



- ・ ボランティア活動は、地域コーディネーターの活動に移管予定。残る「PTA」にどのような「機能」を持たせるか？その「機能」を行うためにどのような「組織体」が最適か？
- ・ P連との係わりはどのようにしていくか？(単Pにとって有益なP連か？)